

平成24年7月13日

千葉市長 熊谷俊人様

千葉市市民局指定管理者選定評価委員会
会長 木頭信男

指定管理者の行った公の施設の管理に係る評価について（答申）

平成24年5月9日付け24千市総第92号で諮問のありました標記の件について、別紙の緑区役所部会からの報告のとおり答申します。



平成24年 7月13日

千葉市市民局指定管理者選定評価委員会
会長 木 頭 信 男 様

千葉市市民局指定管理者選定評価委員会
緑区役所部会
部会長 木 頭 信 男

指定管理者の行った公の施設の管理に係る評価について（報告）

平成24年5月9日付け24千市総第92号で、千葉市長から諮問のあった標記の件について、本部会において審議した結果、下記のとおり議決したので報告します。

記

1 千葉市土気あすみが丘プラザ（議決日 平成24年7月9日）

（1）評価すべき点

- ア 主な実施事業について、施設の維持管理に関する業務は概ね達成できていることは評価できる
- イ 自主事業については、計画を上回る実施結果となったことは大いに評価でき、多種多様な事業内容や実施回数など、特筆すべきと判断される。
- ウ 利用者からの苦情に誠実かつ適切な対応をしていることは評価できる。

（2）今後の検討課題

- ア 指定管理者として積極的な運営を心がけている姿勢は大いに評価できるものの、市内産業の振興に関する指定管理者の事業計画の履行状況に計画倒れの項目が多いことから、指定管理者の負担能力や施設の地理的条件を踏まえ、計画内容について再検討されたい。
- イ 利用者数や団体利用稼働率の著しい低下への改善策が急がれる。稼働率の向上を図るためにも、民間ならではの創意工夫し、各種 PR 等を実施されたい。
- ウ 利用者減の影響や自主事業の採算性が収支実績の赤字額の原因となっていると判断される。今後も事業を継続するためにも、節電などの経費削減の努力を通じて、収支状況の改善を図られたい。

（3）当該指定管理者の財務状況について

指定管理者の財務状況は、提出された財務諸表等の資料に基づいた判断であることを前提とするが、流動資産の部における営業未収入金や預け金の割合が高く、手許現金が少ないため、運転資金の確保を注視する必要があるものの、有利子負債は皆無に等しく、納付税額や当期純利益を鑑みても、特に財務内容に問題があるとはいえない。ただちに、事業の継続が困難になるとは考えにくく、倒産・撤退等のリスクがあるとはいえない。

2 千葉市緑区鎌取コミュニティセンター（議決日 平成24年7月9日）

（1）評価すべき点

- ア 主な実施事業について、指定管理事業は概ね計画通りに達成できたと推察できる。
- イ 利用者からの苦情に誠実かつ適切な対応をしており、近隣施設等との連携したPR活動を通じて、互恵的な関係の構築に努めている姿勢は評価できる。
- ウ 有料化や貸しコマ枠の変更など、制度改正にともない団体利用稼働率の大幅な低下が生じたものの、総利用者数が前年比で5%弱の増加は大いに健闘しており、達成率で判断すると、132.1%増は大健闘していると評価できる。
- エ 収支状況について、施設の維持管理に適正な損益水準であると思われる。支出実績から観察されるとおり、経費削減の努力が感じられる。そのような状況の中、自主事業について、今後も収支のバランスも考慮しながら、多様性に富んだ企画を多数実施されたい。

（2）今後の検討課題

- ア 団体利用者との定期的なコミュニケーションを開催していないことについては、改善が望まれる。稼働率の改善を図るためにも、利用者からの聞き取り調査などでも有効と判断されるため、速やかに実施されたい。
- イ 利用状況について、団体利用稼働率の著しい低下への改善策が急がれる。利用者の増加は既存サークルの入会者の増加と思われる。稼働率の低い施設について、自主事業の実施などで創意工夫を凝らした改善策が求められる。施設の規模や立地条件を鑑み更なる稼働率の向上に努められたい。

（3）当該指定管理者の財務状況について

指定管理者の財務状況は、提出された財務諸表等の資料に基づいた判断であることを前提とするが、貸借対照表の純資産の部において、資本金が事実上毀損している状況には予断を許さないものの、経年の損益状況が赤字から脱却し黒字化しており、その金額も一定の割合が確保されていること、また流動資産の部における手許現金が潤沢であり、運転資金は十分に確保されていると判断される。ただちに、事業の継続が困難になるとは考えにくく、倒産・撤退等のリスクがあるとは言えないものの、指定管理者事業を継続するためにも、黒字経営を維持し、速やかに累積損失の一掃に努められたい。